

ドイツの価値教育における「子ども哲学」の意義と 保育者の役割に関する研究 — F 幼稚園の実践を観点として —

Studie über die Bedeutung des „Philosophierens mit Kindern“ und die
Rolle der ErzieherInnen bei der Werteerziehung in Deutschland aus
Sicht der Praxis im Kindergarten F

船 越 美 穂

Miho FUNAKOSHI

学校教育研究ユニット

(令和6年9月12日受付, 令和6年12月23日受理)

ドイツの幼児教育カリキュラムにおいて、価値教育は重要な位置を占めている。価値教育の方法として、連邦州のカリキュラムの中で度々取り上げられているのが子ども哲学である。本稿の目的は、幼児教育カリキュラム、バイエルン州F幼稚園の子ども哲学の実践、及び保育者インタビューの分析を通して、価値教育に果たす子ども哲学の意義と保育者の役割を明らかにすることである。研究の結果、子ども哲学は、今、ここにいる子どもたちからの発言に寄り添って、子どもたちが参画する能力を身につけることを主眼に置いていることが明らかとなった。そしてその実践を支えているのが、保育者と子どものパートナー的な関係性である。

キーワード: 価値教育, 子ども哲学, 幼児教育カリキュラム, 保育者, 参画

I. 問題の所在と研究の目的

ドイツでは、2004年に「幼児教育のための各州の共通大綱」¹の中で、教育領域として、「個人的及び社会性の発達、価値教育ないし宗教教育」が明記されたことに応じて、連邦16州では幼児教育カリキュラムの中に価値教育を位置付けた。共通大綱は2022年に改定され、ドイツ社会の変化と幼児教育の動向を受けて、価値教育領域に民主主義社会で認められている価値と規範への取り組みと受容、及び文化センシティブ能力の習得が重要な内容として加わった。

多くの連邦州の幼児教育カリキュラムにおいて、共通して価値教育の関連で言及されているのが「子ども哲学」(Philosophieren mit Kindern)である。これまでのところドイツの初等中等教育

における倫理科及び哲学科については、福田²、武藤³、新井⁴、伊藤⁵、濱谷⁶の研究で明らかにされている。ドイツの幼児期における子ども哲学については、バイエルン州幼児教育計画の分析を通して明らかにした船越⁷の研究がある。しかし他の連邦州の幼児教育カリキュラムの中での位置付けや、子ども哲学の実践に関する先行研究はこれまでのところ見られない。

本稿では、ドイツの幼児期の価値教育における子ども哲学の意義、子ども哲学の実践の内容と特徴、及び保育者に求められる姿勢と専門性について、幼児教育カリキュラム、及びバイエルン州のF幼稚園における実践の分析を通して明らかにすることを目的とする。研究方法は、子ども哲学に言及している連邦州の幼児教育カリキュラムを分

析することを通して、子ども哲学を支えている子ども観と保育者の専門性について明らかにする。さらに、F 幼稚園でのフィールドワークを通して収集した、子ども哲学の対話記録、園長及び保育者へのインタビューの分析を通して、子ども哲学の対話の特徴、及び保育者の援助及び意識について考察する。以上の考察を踏まえて、価値教育における子ども哲学の意義を明らかにする。

Ⅱ. 幼児教育カリキュラムにおける「子ども哲学」の位置付け

シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の幼児教育カリキュラム⁸では、教育領域「倫理、宗教、哲学、または問いを立てること」を設けている。チューリングゲン州の0歳から18歳までの子どもたちを対象とする教育カリキュラム⁹では、「宗教教育」、「市民社会教育」と並んで、教育領域「哲学・世界観教育」を設けている。ザクセン州の教育カリキュラム¹⁰では、教育領域「社会性の教育」の中で価値観と世界観を取り上げて、小さな哲学者としての子どもたち（Kinder als kleine Philosophen）について言及している。メクレンブルク＝フォアポンメルン州の教育カリキュラム¹¹では、教育領域「個人的、及び社会情緒的発達、価値教育及び宗教性、文化センシティブ教育」の中で、子どもたちと哲学することを取り上げている。バイエルン州の幼児教育計画¹²とヘッセン州のカリキュラム¹³は、当時のバイエルン州立乳幼児教育研究所のフテナキス（W. Fthenakis）らがカリキュラム作成の指導に当たったため、内容的にはほぼ一致している。両者ともに、子どもたちと哲学することを、価値教育のための重要なアプローチとして位置付けている。

1. 子ども観

以上のように、ドイツ連邦州の幼児教育カリキュラムの中で子ども哲学の位置付け方は様々であるが、共通しているのは、子どもたちを哲学的対話ができる存在であると捉える子ども観である。この点について、ザクセン州のカリキュラムでは、「子どもたちはすでに早期から、人生の意味と世界像を問うことに取り組んでいる。彼らは自らの世界に、ある意味を付与しようと努力している。」（70）としている。チューリングゲン州のカリキュラムでは、「すでに幼児は哲学的熟考と哲学的対話を始めている。この活動の中で、彼らは自らが生きている世界についての見方とイメージを

発達させる。」（193）と述べている。

ここで、筆者が思い起こすのは、幼稚園の創始者であるフリードリヒ＝フレーベル（F. Fröbel 1782-1852）によって紹介されている以下の幼児のエピソードである。

「そら、あそこをごらん。屋根の雨樋のしたで、苦勞してかがみこんだり、のろのろ場所を変えたりしている子どもがいる。屋根から落ちる雨の力で、小さなつるつるしたとりどりの小石が、土のなかから、砂のなかから、洗いだされている。子どもは、それをひとつも逃がすまいといっしょうけんめいに集めている。ちょうど、石材を、将来の建築のための材料を、集めているかのように。それは間違いだろうか。—じっさいにそうなのではなかろうか。—子どもは、自分の将来の生命の建設のための、生命の建物のための材料を、運び集めているのではなかろうか。」¹⁴

フレーベルにとって、幼児の遊びは人間の生命の基盤を築く行為であった。19世紀のフレーベルは、まさに幼児を遊びの中で自らの人生に関する意味を問う存在と捉えていたのである。

幼児教育カリキュラムでは共通して、子どもたちからの問いが決定的に重視されている。シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州のカリキュラム（42）、及びメクレンブルク＝フォアポンメルン州の教育カリキュラム（103）ともに、哲学は驚きによってはじまると捉え、保育者が子どもの問いを真面目に受け止め、適切な対応をすることの重要性に言及している。

2. 市民性教育との関連

さらに、子どもたちと哲学することによって、批判的、論理的思考の促進が目指されていることも共通している。バイエルン州とヘッセン州のカリキュラムでは、哲学すること、問いを立てること、熟考すること、概念形成すること、他者と考えを交流させることを通して、子どもたちは民主主義的原理によって機能する批判的に問いかけを行う共同体になると述べている（BEP, 417）。チューリングゲン州のカリキュラムでは、哲学・世界観教育によって、批判的・論理的思考、他者を承認すること、論証すること、発言すること、及び社会的・政治的立場に関わることを可能にすると述べている（192）。

以上のように、子どもたちと哲学することは、子どもたちの批判的、論理的思考を促進し、市民

性教育にも密接に関連している。2022 年改定の共通大綱の中で、民主主義社会で認められている価値と規範への取り組みと受容が価値形成と価値教育の一部として位置付けられた。子ども哲学は共通大綱が示す価値教育の方向性と一致していることが理解できる。

3. 保育者に求められる資質と能力

保育者に求められる資質と能力とは、子どもの良き聞き手となって、適切な問いかけを行うことである。ザクセン州のカリキュラムでは、保育者は哲学的な問いに取り組むことをタブー視してはならない。逆に、保育者は価値教育と世界観教育の枠内で、自らの立場を省察し、子どもたちが意味や方向性を探求するのを援助しなければならないと述べている (70)。重要なのは、子どもたちが、自らの問いをポジティブなものとして受け止めてもらえる体験をすることである。バイエルン州、及びヘッセン州のカリキュラムでは、子どもたちと哲学することによって重要なのは、すべての意見が尊重され、意見交換のために十分な時間のある、ポジティブなグループの雰囲気であるとしている。さらに、子どもたちの関心を引き起こし、理解力を促すような材料、及びオープンな問いによって、討論を促進する保育者の技能が求められる (BEP, 417-418)。

シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の教育領域「倫理、宗教、哲学」の手引書¹⁵では、子どもたちと哲学することを促すために必要な保育者の態度を以下のように示している (28)。

- 子どもたちが哲学することができると信頼すること。
- 子どもたちと同じ目の高さでコミュニケーションすること。
- 子どもたちに敬意を持って接して、彼らの発言を尊重すること。
- 子どもたちの言語理解に合わせた言葉を使うこと。
- 非言語的表現は、言葉による表現に一致させること。
- 皮肉を避けること。幼児期の子どもたちは皮肉を理解しない。
- 対話能力を持つこと。
- 絵画、象徴、物語、神話的創造物に対して開かれた感受性を持つこと。
- 保育者自身が人生の問いに好奇心を持ち続け、そのことに関して、子どもたちと熟考したい気持ち

を持っていること。

■保育者は完成した答えを与えないこと。

次に、幼児教育カリキュラムにおける子ども哲学の理論が、ドイツの幼児教育現場においてどのように実践されているのかを明らかにする。

Ⅲ. F 幼稚園における哲学の時間

筆者は、2019 年 10 月 14 日 (月)、及び 2022 年 10 月 17 日 (月) 12 時～14 時にバイエルン州ミュンヘン市の F 幼稚園でフィールドワークを行った。F 幼稚園を選定した理由は、子ども哲学を 2005 年から導入した先駆的な園であること。園長は、子ども哲学アカデミー (現 哲学的教育と価値ダイアログアカデミー: Akademie für Philosophische Bildung und WerteDialog) 設立に関わり、子ども哲学に関する著書を出版するなど、理論、実践両面において造詣が深いこと。保育者たちはアカデミーで研修を受けるなどして、専門性向上に努力していること。以上の理由によって、幼児教育カリキュラムで明らかとなった子ども哲学に関する理論が、いかに実践されているのかを分析するには適切な園であると判断した。

F 幼稚園の哲学の時間は毎週一回、12 時 30 分から 13 時 30 分までで、年長児を対象に行われている。バイエルン州では、9 月に新学期が始まるため、筆者が見学をした日は、2019 年、2022 年共に哲学の時間 2 回目にあたっていた。本稿で分析する哲学の時間の実践は、2019 年のものである。

本研究で哲学の時間の中で子どもたちと保育者の対話、保育者、及び園長へのインタビューの文字データ¹⁶を使用することについては、園長に研究内容や倫理的配慮を説明し、書面での同意を得た。また、論文記述の際は、内容が損なわれない範囲で、園やインタビュー対象者が特定されないよう配慮した。

なお、対話記録の中では保育者に T、発言者の子どもに C1 といったアルファベット番号を付した。子どもに付した番号は、哲学の 4 つの問いごとに連番させている。各問いを越えて同じ番号の子どもが必ずしも同一人物ではない。また、対話の中の固有名詞は頭文字のアルファベットで統一した。

1. 哲学的対話の概要

F 幼稚園の哲学の時間は保育室の一角のマット

の上で行われた。子どもは13名（女児7名、男児6名）で、保育者は2名だった。1名の保育者が司会者、もう一人は記録を担当していた。筆者は、子どもたちから少し離れた場所で観察した。12時30分になると、子どもたちと保育者は輪になってマットの上に座った。輪の真ん中にはリングとオレンジのスライスしたもの、そしてドライフルーツが盛り付けられた皿が置かれていた。哲学の時間は、保育者と子どもたちがゆっくりと唱える「哲学しましょう」(Phi-lo-so-philie-ren)という決まり文句によってスタートした。

哲学の時間のルールは、発言する時には指を立てて挙手をする。保育者に指名されたら、毛糸のボールを受け取って発言することである。その際、他の子どもたちは、発言している子どもの邪魔をしたり、揚げ足を取ったりしないこともルールである。使用する毛糸のボールは毎年、子どもたちと一緒に作るそうだ。保育者は、このルールを通して、リスペクトと違った意見にも耳を傾ける寛容さを伝えていると、哲学の時間の後のインタビューで語った。

この日はディオゲネスとアレクサンダーの話が題材だった。保育者は4枚の絵カードを順に見せながら、二人の男について説明をした。ディオゲネスはとても賢く、よく考えることができることで有名で、人々から賛嘆されていた。彼はよく考えて、ほとんど物を必要としない生活を試していた。保育者は子どもたちにこのことをよく覚えておくように言った。続いて、保育者はアレクサンダーについて説明をした。アレクサンダーはとても有名だった。なぜなら、良い戦士で、多くの戦いに勝利したためだ。人々は彼が町に来ると、拍手し、歓声を上げて賛美した。アレクサンダーはディオゲネスの住んでいる町へ来た時、彼の噂を聞いて是非とも会いたいと思った。ここで保育者はディオゲネスが樽の中に住んでいたことを、絵カードを見せながら説明した。彼は、衣類としてただ一枚の白い布だけを持っていた。アレクサンダーは町の人々の案内によって、ディオゲネスを訪ねることになった。とても良い天気、アレクサンダーは軍人の甲冑をつけて、馬に乗って、従者と一緒に赴いた。アレクサンダーはディオゲネスが座っている樽のところまで近づいて、自己紹介をした。そして、ディオゲネスのいかなる望みをも叶えることを申し出た。ここで、保育者は哲学の最初の問いを出した。

問い1. デイオゲネスは何を望んだと思う？

T: ここで、今日の哲学の時間を始めましょう。すべてのことが叶えられるなら、ディオゲネスは何を望んだのか、君たちが思うことを、記録担当の保育者と私に教えてくれるかな？アレクサンダーは、どんな望みでも彼に叶えてやれるだろう。何を望むと君たちは思う？

C1: 彼は馬がとても素晴らしいと思ったので、馬を欲しかったと思う。

T: 彼は馬で何をするのかな？

C1: わからない。

T: ひょっとすると、彼が旅に出ようとする時かな？オーケー。つまり君は、彼がアレクサンダーの馬をもらいたいと思うのね。

Dはどう思うかな？ディオゲネスは何を望むでしょう？

C2: 自動車？

T: 当時はまだなかった。

C2: 自転車？

T: それもまだなかった。

C2: わからない。

T: もう一度よく考えたい？でも、もしすでに自動車があったなら、なぜ彼は自動車を望むのだろうか？

C2: 彼がもうそれほどたくさん歩く必要なくなるから。

T: ああそう。彼がどこかへ行く場合、より早く行くためだね？わかったわ。オーケー。

E, 君はどう思う？

C3: 彼は、アレクサンダーのように、多くのお金を望むと思う。

T: アレクサンダーが持っているすべてのお金を、ディオゲネスに与えるべきかしら？

C3: いいえ、彼は二人ともお金を持つことを望むわ。

T: ああ、オーケー。では、何のために彼はお金が必要なのかな？

C3: 布ではない何かを買うために。例えば、セーターやズボン。

T: ああ。

O, デイオゲネスは何を望むと思う？

C4: えっと、剣。

T: なぜ剣だと思うの？

C4: 泥棒が樽に近づいて、彼を縛ろうとしたら、彼はそれを使って戦える。

T: オーケー。

P, 君はどう思う？ディオゲネスは何を望むでしょう？

C5: 彼は自分の犬を望む、犬小屋と一緒に。

T: ああ、なぜならそこにいる彼を、前々からそれらが訪問していたからと思うのかな？それで、彼は自分でも一匹持ちたいのかなと？

中略

C6: 彼は、アレクサンダーのような緑色の甲冑を望むと思うわ。

T: ああ、彼は、布だけでなくね。

C6: そして、彼も有名になることを望むわ。もはやそんなに賢くはない。でも、彼はアレクサンダーと戦うこともできるわ。

T: アレクサンダーと一緒に？、またはアレクサンダーに対して？

C6: アレクサンダーと一緒に。

T: ああ、オーケー。

中略

C7: ひょっとすると、小さな住まい。彼があまり濡れないために。

T: ああ、雨が降ったら、彼は樽の中に住んでいるからね？

C7: うん。樽の中に、もしかすると穴が空いてるかもしれないから。

T: オーケー。

中略

T: ここで結末を教えなければならないね？君たちはみんな、驚くことでしょう。なぜなら、当時の人々もそうだったから。人々は、ディオゲネスが望んだことを信じるできませんでした。君たちは想像しなければならないよ。ディオゲネスが樽の中に座っていて、アレクサンダーは立っており、外には従者たちが取り囲んでいて、全員ディオゲネスが望むことをとてもハラハラドキドキしながら待っていたことを。

アレクサンダーは言った。「ディオゲネス、私はただ一つの望みを君のためになえよう。君は何を望むかい？何が必要かな？」その時、ディオゲネスは視線を向けて言った。「私は君が脇へ一歩寄ってくれることを望むよ。なぜなら君は日向に立っているの。」これがすべての望みだった。彼はただアレクサンダーが少し脇へ寄ることだけを望んだ。それだけだった。アレクサンダーは彼を見つめて、そのことを信じるできなかった。彼は君たちと同じように考えていた。馬、宝石、家、彼には心構えができていた。しかしディオゲネスが、少しだけ脇へ詰めてほしい、君は日向に立っている、と言ったことは思ってもいなかった。

その時、アレクサンダーは素晴らしいことを

言って、それから従者たちと立ち去った。彼はとても笑って、こう言った。「もし私がアレクサンダーではなかったら、私は望むだろう。自分がディオゲネスだったらなあ」と。君たちは、なぜアレクサンダーがそう言ったと思う？

問い2. なぜ、アレクサンダーは、「自分がディオゲネスだったらなあ」と言ったと思う？

中略

T: J, 君はどう思う？

C1: わからない。

T: ちょっとじっくり考えてみない？

C1: わからない。ああ、わかった。彼がとても早く走り去ることができたということ。

T: アレクサンダーは、再び馬に乗って行ってしまった。ディオゲネスはそこにとどまっていた。アレクサンダーは何を素晴らしいと感じたと思う？

C1: 彼はその場を再び馬に乗って去ることができたということ。

T: ああ、そうね。それは全然複雑な望みではなかったということね。

C1: うむ。そうだったよ。

T: そういう可能性もあるね。

では、O。

C2: アレクサンダーが他の人だったら、急いで外に出て、中へ入っていけるだろうに。なぜならドアを開けて、階段を降りて、再び上がって、ドアを開けて、そして.....

T: そう、そのことが樽だとずっと簡単よね？それはずっと簡単ね。

C2: うん。そして布だけを身につけて、準備完璧、出発できる。

T: 「さっ」とね。それは時間を節約するのかな？

今、私はとてもハラハラドキドキしているわ。なぜなら、君たち一人ひとりが今、十分によく考えているので。もし、君たちのところに誰かがやって来て、アレクサンダーのように、ただ一つの望みのことを言ったら、君たちは何を望むでしょう？君たちは一つの望みを持っています。君たちは何でもいいから望んでもいい。買えるもの、買えないもの、何でもいい。君たちはただ一つの望みについて何を望むでしょう？十分よく考えてごらん。

問い3. 君のただ一つの望みは何でしょう？

C1: 僕は赤いライトセーバーを望む。

T: 赤いライトセーバー？遊ぶために？

C1: 違うよ、戦うため。

T: オーケー。

C1: そして、エアポートも欲しい。一人だけが座れて、漕いでいけるのが欲しい。

T: 本物の、そこに座れるような？ オーケー。

C1: 本物の水上。

T: おおっ。

中略

T: L, あなたは何を望む？

C2: 私はもし今、家がなかったら、女王と私のパパの王と、小さな王子と妹とお城に住みたい。

T: お城を欲しいのかな？ ふむ。たくさん場所のある？

C2: そして、もし今、二つの願いが叶うのなら、私は本物の王女で、長いプリンセスドレスを持っていて、本物のハイヒールも欲しいわ。

T: もしかすると叶うかもね。

中略

T: オーケー。また、O ね。その次、M, P の番ね。それから、次の質問をするわね。オーケー？

O, ただ一つの望みは何か？

C1: 牛小屋、馬小屋、馬車。

T: エアポートよりもいいのかな？ なぜなら君はただ一つの願いだけを持つんだよ。何に決定するのかな？ ただ一つの事柄だけ願ってもいいのよ。何が最も重要なのかな？

C1: 最初に話したこと。

T: 牛小屋？ 農場のようね、それは素敵なのかな？

C1: 馬もそこにいる。両方とも同じ農場にいる。家畜小屋も同じ農場にある。

T: それゆえ一つの願いということね？ そう、それはいいね。

中略

C3: 明日もいとこたちと素敵に最後の日を過ごすこと。

T: 今、残念ながらあまりよく聞こえなかった。もう一度言ってね、ごめんね。

C3: 明日、私のいとこたちと最後の日を過ごすこと。

T: おお、明日来るの？ そう？ あるいは、すでにおられるの？

C3: うん、すでにいるよ。

T: とても楽しみなのね。君はすごく優しいね。

じゃ、今から難しい質問をするよ。君たち用意はいいかな？ 最後の質問よ。今、君たちはまったく何も持っていないと想像してみて。まったく何もない。ディオゲネスよりもっと少ないのよ。樽もない。布もない。何もない。最も必要なもの、

人が生きるために必要なものは何だと思う？ まったく何も持っていないとしたら。何がこの上なく重要なものだと思う？

問い 4. 人が生きるために必要なものは何でしょう？

中略

C1: 着る物、飲み物、食べ物、家。

T: 一つだけよ！ 最も大切なものは何だと思う？ または君は何に決めるでしょう？ ただ一つの物だとしたら。

C1: 何か着る物。

T: オーケー。それでお腹が減ったら、君はどうする？

C1: 何か買う？

T: でも、もしかすると買い物をするためのお金などがなければ、人はどうするかな？ 君は着る物だけを持っている。ズボンと T シャツとソックスと靴だけ。その時どうする？ ひょっとすると誰かに質問できるかもね？ 「私はとてもお腹が空いている！」 と。でも、君は正しいよ。着る物はとても大切だよ。

L, 君は何を選ぶかな？ 何が一番大切かな？

C2: 人が病気で、薬が必要で、持っていないと。

T: そうね、薬も大切ね。確かにそうね。

C2: そして人は医者に行くことができない。医者がとても遠かったら、そして人が自動車を持っていないくて、何も持っていなかったら。人が靴だけを履いて行くと、とても長くかかる。そして冬だったら、冬に病気になったら 人は歩いて、歩いて。

T: 人にとって、そんなに寒くないためにね。

C2: うん。人は震える。

T: 君は、一番大切なのは薬だと思うのね？

C2: うん。

T: そうね。薬は本当に大切ね。

中略

T: S, どう思う？ 一番大切なのは？

C3: 着るための何かを持つこと、ひょっとしたら二三の板と二三の釘とハンマーを持って、小さな木の小屋を建てられること。

T: ただ一つの物だけ所有できるとしたら、着る物、または小屋、どちらを持ちたいかな？

C3: 着る物。

T: ふむ。寒かったり、夜だったら、どこへ行くの？

C3: ひょっとしたら、他のもっと金持ちの人のところ？

T: そして質問をするのかな？ まだ少し場所があるかどうか？ いいね、オーケー。

手を挙げて、E?

C4: 着る物があつた方がいい。なぜなら人は他者のところへ行って、住むことができるか、食べ物をもたらえるか、分かち合えるか尋ねることができるから。

T: 確かに、なぜなら人はそれを分かち合うことができるからね？

C4: うん。

T: オーケー。では、M に渡してくれる？

C5: ショッピングセンターを望むのがいいと思う。

T: それは確かに抜け目がないわね。それでスーパー丸ごと一つが欲しいのかな？

C5: 何かを買うことができるために。

T: ふむ。確かに！ スーパーマーケットには着る物もあるのかな？

C5: うん、着る物が置いてある店へ行ったらね。

T: もし食べ物のあるスーパーマーケットか、洋服のある店か、一つを決めなければならない場合、どちらを取るかな？

C5: スーパーマーケットだよ。

T: 食べ物と飲み物のある？

C5: うん。それで、上に行くと、着る物もあるよ。

T: そうね、時々あるね。それは抜け目がないわね。両方あるのね。

中略

C6: 僕はお金が欲しい。

T: ああ、君はお金を望むのね？

C6: 他の人たちが望んでいたものを何でも買うことができるよ。

T: それは正しいね。ふむ。それでいくらのお金を望むのかな？

C6: ふむ。ブタの貯金箱 10 個分？

T: 空っぽの？

C6: いっぱいに詰まった。

T: いっぱいに詰まっている、当然ね？ それはいいアイデアね！ すごい。ありがとう！

うわあ、君たちは今日しっかりよく考えたわね！ じゃ、親指の準備をしてね。目を閉じてもいいよ、オーケー？ 目を開けていてもいいよ。じゃあ。ディオゲネスとアレクサンダーの今日のお話は気に入ったかな？ オーケー。君たちは今日の質問についてしっかりと良く考えたかな？ 哲学を楽しんだかな？ 誰か質問ありますか？ O!

C7: 人が正確にとってもたくさん望むことができたなあ。

T: そうね、質問は気に入ったかな？ オーケー？ よかった！

この日の対話にかけた時間は、およそ 30 分間であった。哲学の時間の最後に、果物を食べることになっている。園長によると、以前、子どもたちは哲学することを嫌がったことがあったそう。その理由を尋ねると、子どもたちは「哲学をすると、いつもとてもお腹が空くから」と言ったそう。この時、園長と保育者たちは、「たくさん考えると、とてもお腹も空く」ことを理解した。それ以来、哲学の時間には果物を用意して、子どもたちと保育者の輪の真ん中にシンボルのように置かれている。子どもたちは果物を「おいしい、おいしい」と言って、嬉しそうに食べていた。担当保育者は、「これは最後の儀式なんです。」と語った。

2. 哲学の時間における子どもたちの発言の特徴

保育者が立てた最初の問い「ディオゲネスは何を望んだと思う？」では、子どもたちの発言は絵カードに描かれている馬、犬、緑色の甲冑などの影響を受けていた。しかし次第に、樽に穴が空いているかもしれないから小さな住まいを望む、友だちを持つことを望むなど、ディオゲネスの身になって想像をめぐらし、共感的に考えることができるようになっていった。

次の「なぜアレクサンダーは、『自分がディオゲネスだったらなあ』と言ったと思う？」の問いには、他の問いに比べると発言する子どもの数は多くなかった。ディオゲネスがほとんど物を必要としない生活をする意味や、アレクサンダーの心境を理解することは容易なことではないだろう。その中で、一人の子どもは、ディオゲネスの生活スタイルがシンプルであるゆえ、行動が容易にできることを指摘した。

保育者は、3 番目の問い「君のただ一つの望みは何でしょう？」を立てることで、子どもたち自身の生き方に繋いだ。この問いに対する答えは、子どもたちの個性や生活が反映して、多様であった。男児 2 名は赤いライトセーバー、女児 1 名はお城、そしてプリンセスドレスと答えた。映画などのマスメディアの影響を受けていることが理解できる。馬や農場と答えるケースも目立った。自然豊かで農業、牧畜が盛んであるバイエルン州の風土と共に、園生活や子どもたちの余暇の過ごし方も影響していることが推察される。一人の子どもは物ではなく、いとこと楽しく過ごすことと答

えた。

最後の問い「人が生きるために必要なものは何だと思う？」は、保育者がこの日、最も考えさせたかった哲学の問いであったと推察する。着る物、食べ物、飲み物、家といった発言が多く、最後の方では、スーパーマーケットやお金といった何でも一度に手に入れる術を考える子どもがいた。

子どもたちの発言の内容は、3番目の問い「ただ一つの望み」と、最後の問い「人が生きるために必要なもの」では大きく異なっていた。「人が生きるために必要なもの」に至っては、もはや赤いライトセーバーや剣などのマスメディアの影響も、プリンセスへの憧れといったジェンダー的な発想もなくなり、衣食住と薬など生きることを意識した思考に変わっていった。

3. 保育者の司会・援助の特徴

幼児期における哲学の時間は、保育者の司会や対話力、及び子ども理解が鍵を握っていることが、フィールドワークにおいて確認された。対話記録から、保育者の援助の特徴を以下の通り分類した。

① 子どもの発言への共感と補足

問い1で、ディオゲネスが「馬を欲しかったと思う」と答えた子どもに対して、保育者は「ひょっとすると、彼が旅に出ようとする時、かな？」という具合に、子どもの言葉に共感し、真意を確認して、他の子どもたちに理解しやすいように補足している。

また、子どもが説明に行き詰まったら、想定されることを言葉にして補足している。例えば、問い2に対して「その場を再び馬に乗って去ることができたということ。」と答えた子どもに対して、保育者は「それは全然、複雑な望みではなかったということね。」と補足して、子どもの発言を意味づけている。このような保育者の援助は、他の子どもたちだけでなく、発言した子ども自身の理解をも深めている。以上のような保育者による子どもたち一人ひとりの発言に応じた援助によって、子どもたちの理解が深まり、次第に批判的、論理的思考力が育っていくのであろう。

② 子どもの発言を否定しない

問い1で、保育者から、当時は自動車も自転車もなかったと言われた子どもが、「わからない」と反応した時、保育者は「もしすでに自動車が

あったら」という具合に自らの発言を修正した。保育者には子どもの発言を否定しないことと共に、臨機応変に対応する柔軟性も必要である。

しかし、子どもの発言をすべて受け入れるのではなく、子どもが問いについてよりよく考えるように要求する場合もある。それは最後の問いで、たびたび見られた場面であった。つまり、子どもが複数の答えを言ったり、同じ子どもが度々発言したりする場面で、保育者は、子どもの願いを一つに絞るように促した。この場合、保育者が、子どもたちに考えさせたいこと、伝えたいことは、複数ある選択肢の中から、ただ一つの願いに絞っていく時の思考プロセスの中にあったからである。

さらに最後の問いでは、数人の子どもたちは、次第に別の角度から思考するようになった。例えば、何でも手に入るスーパーマーケットや、何でも買えるお金だ。保育者は、このような子どもからの発言に対して、無理に一つに絞らせるようなことはしないで、逆に「そういう可能性もあるね。」「抜け目がないわね。」と言って認めている。ここでも子どもの多様な発想を受け入れる保育者の懐の深さ、柔軟性、さらにユーモアのセンスが指摘できる。

③ 子どもの発言への評価

保育者が評価するのは、子どもたちがよく考えるということである。「今、私はとてもハラハラドキドキしているわ。君たち一人ひとりが十分によく考えているので。」などの表現で評価している。子どもの発言そのものに対して、優劣をつけたり、賞賛したりすることは、哲学の時間で行うことはない。

④ 子どもの発言に関連させた価値観の伝達

「人が生きるために何が必要か」について、一人の子どもは「着る物、飲み物、食べ物、家」と答えた。それに対して、保育者は「一つだけよ！最も大切なものは何だと思う？」と問うている。子どもが「着る物」と答えた後で、保育者は「それでお腹が減ったらどうする？」と尋ねている。子どもが「何か買う？」と言うと、保育者は、お金がない時にはどうするのかとさらに問うてから、「ひょっとすると誰かに質問できるかもね？『私はとてもお腹が空いている！』と。」といった言葉をかけた。他の子どもたちは、保育者のこの発言を受け止めて、自分の発言に反映させていった。

子どもたちは、対話の中で、生きるためにただ一つのものを選ぶことは容易ではないことに、次第に気づいていったことが推察される。保育者の発言によって、複数の子どもたちは、人生にとって、他者に助けを求めたり、分かち合うことは必要なことである、つまり大切な価値だということを察知したと推察する。例えば、着る物が必要と考えた子どもは、「なぜなら人は他者のところへ行って、住むことができるか、食べ物をもたらえるか、分かち合えるか尋ねることができるから。」と答えている。この発言に対して、保育者は、さらに「確かに、なぜなら人はそれを分かち合うことができるからね?」と言葉をかけている。この一連のやり取りを通して、保育者は、子どもたちの発言に「分かち合い (Teilen)」という価値を関連づけ、浸透させたと捉えられる。

F 幼稚園では子ども哲学を通して、保育者は子どもの発言に関連づけながら、哲学的な価値観を伝えていることが実践を通して明らかとなった。

Ⅳ. F 幼稚園における哲学の時間の意義

1. 自由意志の尊重

哲学の時間は、9月の新学期から12月までは練習のために、年長児全員が参加するが、年明け1月からは自由参加になる。保育者が本日の哲学のテーマを伝えてから、子どもは一緒に行くか、行かないかを自分で決める。園長はその理由について「哲学することは頭で起こっています。もし自分の考えを自由意志で表現しないならば、それはもはや自分の本当の考えではないからです。もし私が、今、何かを言うことを強制されるならば、『何が幸せなのか言ってごらん』と。それは良いことではありません。」と語った。

発言する際も、強制ではなく、自由意志が大前提である。発言したい子どもは挙手をして、指名されたら、毛糸のボールを受け取って発言する。園長によると、ただじっと聞いている子どもたちがいる一方で、とてもよく話す子どもがいる。確かに筆者の観察した場面においても、特定の子どもが何度も挙手をしていた。しかし園長たちが確信しているのは、「何も言わない子どもたちであっても、一緒に考えている」ということである。園長は「このことが私たちにとって、非常に重要なのです。」と語った。

2. 子どもたちの対話文化の育ち

哲学の時間には、わずかなルールしかない

園長は言った。前述した通り、子どもは発言の際、毛糸のボールを受け取ると発言が許される。時々、子どもたちはボールをかなり長く手に持って、考えて、考えて、考えて、そして話し続けるそう。園長によると、毛糸のボールは、対話文化 (Gesprächskultur) にとって非常に重要である。

園長は、「子どもたちが長く哲学すればするほど、対話の文化が発達する」ことに気づくという。つまり、最初のうちは、子どもはとにかくボールを一度手にしたかったり、その前の子どもが言ったことを繰り返したりするだけのこともある。しかし、哲学の時間の経験を重ねる中で、子ども自身の考えが出てくるようになる。その時には、友だちが言ったこと、友だちが言っていることは、もはや重要ではなくなる。子どもたちは自分自身が考えていることを実際に話すようになる。

園長はその理由を保育者たちが評価をしないからだと言った。「それはよかったね」や「いいえ、そうじゃない」と言うのではなく、「ああ、そう君は考えるのね」「それじゃ、他の子どもはどう考えるのかな?」と保育者たちは言葉をかける。園長は哲学の時間の目標を次のように表現した。

「子どもたちは評価されることなく、自由に自分の考えを表現できることに気づきます。これは価値教育にとって非常に重要な要素でもあります。私自身の考えに価値があり、重要であること、そしてそれは聞いてもらえることです。そして、ある一定の時間が経ってから、子どもたちがお互いに話をするのは、私たちにとっても嬉しいことです。つまり、君が言ったことに、私もそう思うよ。あるいは、君はそう言ったけど、私は違う考えを持っているよ。それによって、子どもたちは自信を持ち、自己を強化します。それが私たちの大きな目標なのです。」

以上のように、子どもたちは哲学の時間で経験したことを、次第に日常生活での対話に活かせるようになる。対話文化の形成こそが、F 幼稚園における子ども哲学の目標なのである。

3. 保育者の子ども理解の深化

哲学の時間は子どもたちだけでなく、保育者たちにも大きな影響を与えている。園長によると、保育者たちは日常生活でも、子どもたちと話し続け、すべてのことに子どもたちを参加させるようになった。そして、哲学の時間の中で、子どもたちの別の面を見ることができるようになった。子

どもたちは、普段グループの部屋で言わないことを、哲学の時間には語るといふ。また、保育者は、ストレスを感じていたり、時間が切迫したりしていると、子どもの話をきちんと聞くことができないことがある。しかし哲学の時間では、非常に意識的に子どもの言葉に耳を傾けることができる。哲学の時間は、保育者の子ども理解を深めることに繋がっているのである。

4. 哲学テーマと保育者の願い

本稿で取り上げたF幼稚園の哲学の時間のテーマは、願い（Wunsch）だった。哲学の時間でいつも司会を担当している保育者は、このテーマに対する思いを次のように語った。

「このテーマは、私たちの子どもたちにとって大切だと思います。なぜなら、ここには貧しい子どもたちはいないからです。子どもたちにとってとても大切なことは、人は本当に何を必要としているのだろうか、といつも想像することだと思います。つまり、『私はとても十分に持っている。でも、人はそのうち本当に何が必要なのだろうか?』と。子どもたちは最初の願いであった、馬、ボートを修正することに気づきます。本当に必要なものとして、家、着る物、薬に。ここにいる子どもたちよりも、明らかに少ししか持っていない多くの人が存在するということを想像することはいつも大切であると思います。」

F幼稚園はドイツの有名企業勤務の親たちが共同運営する幼稚園だ。そういう意味から、生活に困窮している家庭の子どもたちは、ほほいないと推察される。だからこそ、保育者は対話の中で、子どもたちの発言に「分かち合い（Teilen）」という価値を関連させたと捉えられる。

バイエルン州の幼児教育計画では、哲学すること、問いを立てること、熟考すること、概念形成すること、他者と考えを交流させることを通して、子どもたちは民主主義的な共同体になると述べている（417）。子ども哲学では、子どもたちの問いは何よりも重要であると言っても過言ではない。

F幼稚園では、初めの数回は保育者がテーマを決めるが、その後は子どもたちと共同でテーマを探すことになる。その際、使用するのが子どもたちからの問いと、保育者が考えた問いを集めた哲学の瓶だ。瓶の中には、子どもたちからの問いとして、例えば、「永遠はどのくらいの長さなの?」「人は常にいるのだろうか?」「どうして愛する神様はいるの?」「なぜ人はおめかしをするのでしょ

う?」などが入っていた。哲学の時間の対話の際に、哲学の瓶を輪の真ん中に置いて、その中から問いを引き抜いて哲学をするそうだ。

哲学の時間の根幹を成す、問いを立てる行為自体が、子どもたちの参画によって成立しているのである。

V. 結び

現在、ドイツの幼児教育カリキュラムでは、子どもたちの参画（Partizipation）が重要なコンセプトとして位置づけられている。価値教育もまた、子どもたちが参画する中で実践されることが求められる。

F幼稚園の保育者は子どもたちの参加の自由意志を尊重し、対話のルールを通して一人ひとりの発言へのリスペクトと、違った意見にも耳を傾ける寛容といった、いわゆる民主主義的価値観を伝えていた。哲学の問いについては、最初の数回は保育者が選ぶが、その後は子どもたちも問いの探求や決定に参画していた。子どもの発言の際には、保育者は共感したり、確認したり、言葉を添えることによって、他の子どもたちだけでなく、発言した子ども自身の理解も深まるように援助していた。それは幼児教育カリキュラムの中で言及されていた子どもたちの批判的、論理的思考力の育成につながる援助であった。哲学の時間が終わると、子どもたちは、今日の題材や問いについて評価を行った。F幼稚園の哲学の時間は、子どもたちの参画によって成立していることが理解できる。ここで留意すべきは保育者と子どもの関係性である。

シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の手引き書では、保育者の姿勢として、子どもたちを信頼すること、同じ目の高さでコミュニケーションを図ること、敬意を持って接することを挙げていた（28）。F幼稚園の園長は、「保育者は、すべてを知っていて、上位に立って指示を出す大人ではなく、子どもたちと同じ世界を見ているという、自らの姿勢を示すことが大切なのです。」と語った。ここには、従来の「保育者中心」「子ども中心」という捉え方を越えた、パートナーとしての関係性が現れている。

ドイツの教育哲学者のO.F.ボルノーによれば、対話に関与する者は他者に耳を傾けて、心を開く覚悟が必要である。そのためには、自己自身の優越性への信仰を諦めて、あらゆる権威的要求を断念し、他者を原則的に同等の権利を持つ相手として承認することが必要であると述べている¹⁷。ボ

ルノーの語ったことは、まさに哲学の時間を司る保育者に求められる姿勢なのである。

ドイツの子ども哲学を通しての価値教育は、今、ここにいる子どもたちからの発言、要求に寄り添って、それに関連させながら実践されている。そしてその実践を支えているのが、民主主義的価値観であると共に、保育者と子どものパートナー的な関係性である。これこそが価値教育に果たす子ども哲学の意義なのである。

謝辞 本研究では、F 幼稚園の園長、保育者、子どもたちに協力いただいた。ドイツ語用語法については、福岡教育大学非常勤講師のロナルト・ライバルト氏に助言をいただいた。ここに感謝を表す。

付記 本研究は JSPS 科研費 19K02644 の助成を受けたものである。

註

¹ Kultusministerkonferenz, Jugendministerkonferenz (2022): Gemeinsamer Rahmen der Länder für die frühe Bildung in Kindertageseinrichtungen. https://www.kmk.org/fileadmin/veroeffentlichungen_beschluesse/2004/2004_06_03-Fruhe-Bildung-Kindertageseinrichtungen.pdf

² 福田弘 (1998): 「価値・道徳・宗教の教育」天野正治, 結城忠, 別府昭郎編著『ドイツの教育』東信堂, 160-166。

³ 武藤孝典 (2007): 「ドイツの学校において」武藤孝典・新井浅浩編著『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展—フランス・ドイツ・イギリス—』東信堂, 162-174。

⁴ 新井浅浩 (2007): 「ブランデンブルク州における『生活形成・倫理・宗教』科」武藤孝典・新井浅浩編著『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展—フランス・ドイツ・イギリス—』東信堂, 199-217。

⁵ 伊藤敏子 (2008): 『価値教育の諸相—ドイツ語圏における動向から—』三重大学教育学部研究紀要第 59 巻教育科学, 177-186。

⁶ 濱谷佳奈 (2020): 『現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携—中等教育の宗教科と倫

理・哲学科との関係史—』風間書房。

⁷ 船越美穂 (2020): 『ドイツの保育施設における価値教育に関する研究—バイエルン州幼児教育計画 (BEP) を観点として—』福岡教育大学紀要第 69 号第 4 分冊, 79-88。

⁸ Ministerium für Soziales, Gesundheit, Jugend, Familie und Senioren des Landes Schleswig-Holstein (Hrsg.)(2019): Erfolgreich starten. Leitlinien zum Bildungsauftrag in Kindertagesstätten.

⁹ Thüringer Ministerium für Bildung, Jugend und Sport (Hrsg.)(2019): Thüringer Bildungsplan bis 18 Jahre. verlag das netz, Weimar.

¹⁰ Sächsisches Staatsministerium für Kultus und Sport (Hrsg.)(2011): Der Sächsische Bildungsplan—ein Leitfaden für pädagogische Fachkräfte in Krippen, Kindergärten und Horten sowie für Kindertagespflege. verlag das netz, Weimar・Berlin.

¹¹ Ministerium für Soziales, Integration und Gleichstellung Mecklenburg-Vorpommern (Hrsg.)(2020): Die Bildungskonzeption für 0- bis 10- jährige Kinder in Mecklenburg- Vorpommern.

¹² Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2018): Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Berlin: Cornelsen.(BEPと略)

¹³ Hessisches Ministerium für Soziales und Integration/Hessisches Kultusministerium (Hrsg.)(2015): Bildung von Anfang an. Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder von 0 bis 10 Jahren in Hessen. http://www.bildungsplan-hessen.de/downloads/bildungs-und_erziehungsplan_2015-08-27.pdf

¹⁴ フレーベル著, 荒井武訳 (2019): 『人間の教育 (上)』岩波書店, 90。

¹⁵ Ministerium für Soziales, Gesundheit, Jugend, Familie und Senioren des Landes Schleswig-Holstein (Hrsg.)(2018): Erfolgreich starten. Handreichung für Ethik, Religion und Philosophie in Kindertageseinrichtungen.

¹⁶ 本稿で使用した対話記録, インタビュー記録については, 筆者によってドイツ語から日本語訳を行った。

¹⁷ O. F. ボルノー著, 森田孝, 大塚恵一訳編 (1989): 『問いへの教育』川島書店, 195。

Zusammenfassung

Studie über die Bedeutung des „Philosophierens mit Kindern“ und die Rolle der ErzieherInnen bei der Werteerziehung in Deutschland aus Sicht der Praxis im Kindergarten F

Miho FUNAKOSHI

Die Werteerziehung nimmt einen wichtigen Platz in den deutschen Bildungsplänen für die frühkindliche Bildung ein. Die Kinderphilosophie als Methode der Werteerziehung findet sich in den Bildungsplänen Bayerns und anderer Bundesländer wieder. Allen gemeinsam ist, dass ein Bild von Kindern als „kleinen Philosophen“ gezeichnet wird, die sich von klein auf mit der Frage nach dem Sinn des Lebens und dem Weltbild beschäftigen. Darüber hinaus werden von den ErzieherInnen Qualitäten und Kompetenzen gefordert, die darin bestehen, den Kindern zu vertrauen, den Dialog zu fördern und selbst neugierig auf die Fragen des Lebens zu sein.

Der Kindergarten F in Bayern hat 2005 die Philosophiezeit eingeführt, die einmal pro Woche für etwa eine Stunde mit den älteren Kindern stattfindet. Dabei respektieren die Erzieherinnen den freien Willen der Kinder zur Teilnahme und vermitteln durch die Regeln des Dialogs so genannte demokratische Werte wie Respekt vor dem, was jedes Kind zu sagen hat, und Toleranz gegenüber anderen Meinungen. In den ersten Stunden wählen die Erzieherinnen die philosophischen Fragen aus, aber später beteiligen sich auch die Kinder an der Erkundung und Entscheidung über die Fragen. Wenn Kinder sich zu Wort melden, helfen die Erzieherinnen ihnen, ihr eigenes Verständnis und das der anderen Kinder zu vertiefen, indem sie sich einfühlen, bestätigen und Worte hinzufügen. Ein weiteres Merkmal der Werteerziehung in der Kinderphilosophie ist, dass in Bezug auf die Aussagen des Kindes Werte vermittelt werden,

die eine universelle Bedeutung für das Leben haben.

Ziel sei es, so die Kindergartenleiterin, dass sich durch das Sammeln von Erfahrungen in der Kinderphilosophie eine Gesprächskultur im Alltag entwickle, die wiederum den Kindern helfe, ein Selbstwertgefühl zu entwickeln. Darüber hinaus bietet die Philosophiezeit den Erzieherinnen auch die Möglichkeit, den Worten der Kinder bewusst zuzuhören. Es hat sich gezeigt, dass die Erzieherinnen ihr Verständnis für die Kinder vertiefen, indem sie deren Gedanken und Geschichten kennenlernen, die sie normalerweise im Gruppenraum nicht hören würden.

Gegenwärtig nimmt die Partizipation der Kinder als ein wichtiges Konzept in den deutschen Bildungsplänen für frühkindliche Bildung einen festen Platz ein. Werteerziehung muss daher auch im Kontext von Partizipation praktiziert werden. Die Kinderphilosophie ist ein effektiver Ansatz zur Werteerziehung aus der Perspektive der Partizipation. Die Werteerziehung durch Kinderphilosophie im Kindergarten F wurde in engem Bezug zu den Aussagen der Kinder im Hier und Jetzt praktiziert. Und diese Praxis wird durch demokratische Werte sowie die partnerschaftliche Beziehung zwischen Erzieherinnen und Kindern unterstützt. Gerade hierin liegt die Bedeutung der Kinderphilosophie für die Werteerziehung.

Schlüsselwörter: Werteerziehung, Philosophie mit Kindern, Bildungspläne für die frühe Kindheit, ErzieherInnen, Partizipation